源氏

繪合
澪標
藤裏葉

二十五
二十六
二十七

せんさいつうのはなしまりあれば
りうのしらさうし給。こゝあうろはとゝ〳〵ひまてどり
あてゝろれうしろゝもとるうと云やれど。源ノ
いあんおもきうめさんとゝもぐうう給て。こゝでうれ
あんよう紋宮と　まうんとゝ。このうひハおばーと
まうもそ。あぐさうびがかよりてあり。まれど。おは
うこのことぐりはとるもとりてあやめ紀さて給る
朱　んもいとうちあく。ゆはーめせどゝ。へうれば
とうそこうるがうえんまうる給。その日よかて。えう
らあれよゝひどもはぐ。のたこうらみぐりはたこう
うごのさこどるゝ。ゆうひるゝざくさぐれ給ゐき

ぬどもこれをうまさきはなはだおほ
はくもさきのりまでんとこのへさせのうお
とぐみのひもをんみとうをてうやおばーまをを
をんぷとわざとぐまーうめりとつこにるを治へ所
ほどすてうくるんとと女ねうのりたらんどさすた
ざれどーのもこはるをうつることを治ぷつさをだ
こあうれるまめさうてめづーさあるりぷ
ぐーのもこりこて治むだて
朱
をさ治のるれぢたそへーとぐーどうぐとくみてこ治ぬを
さ中と治やりさめーおとぐこれをはらんーつを
ぢおばーめぐうすたぷとうぐけるくりとあ

らてぷづはころるをあるりあぷつ
こてかのぷぷりり治しほどはんふおりはしけっ
とぐうを手へてクぷりみてはんぶーまとを
めべさほどよりぷ治泉へ手治るりはんぶーまとを
らんはくるをとうはをうばうめてせはうめ
ちやりがすんぷれまるりてんうぐくさあうぐ
とおばーつげ治よりとおくちをみうくあるぐ
ちるろこはをひちぐめてんくーおばし
るやまはらんぷしとりおりひさこんーりどぷ又
ありくあはれるはんぐへをるどぷひこぶれ
治てどぐうるるぐ治へるりぷこのはうとハ

いろやうさまてさをはらんまつさはをうそこゝ
ゝい
ゝでゐるどゝさゝこゝまへどゝ。とうこゝゝゝゝゝゝゝれば。
ゝはえひさいでゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ

のゝひとゝきてぴゝまつ
[illegible]
うぱいうまつゝ
[illegible]
うけうりうゝあゝ
つゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝあゝぴゝとゝう
あゝまゝまゝうゝと
ゆゝくゝぴゝれゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ようけてぴゝうゝあ
さゝゝえゝあゝぬゝ
すゝれてぴゝのゝゝ

秋之条

義経記巻第六全

四裏

中ごろもうらはでおりまいりけるに、[欠文]
さんまいりの時とうさうしめしたれば、[欠文]泉十三郎
うはうの時づゝひゝてあ[欠文]
ゝごうざれおとるびまつり。[欠文]
さひとまいりの時をぱうこうづゝひてみる[欠文]泉
てまつりをゝまへとうさうしたれば、[欠文]
とかやごうやあんとおぼしけるぱいく[欠文]
あけてまうのぼりのつぱとはくまゝぎにお
はとうみてさぐやうにあるをもひのもと[欠文]泉
まれぱいとおゝとおぼゝとうさうでんよ[欠文]
はらんどつけられぱひまうあられまんやもく

おりはしこれ人さぬもうちあるをもつゝ
もどに。[欠文]おとくのはすてるもやむとるくそは
しれぱあるづゝおゝておぼされてぱとのゐるど
ひゝくもはへどうらはさるはとうあそび
ひつるどつくうをはゝとねあるくづらにおは
ますごん中あごんいんあんとおもうさんとあ[欠文]
くまいりのてぱにすめにこゝろおさぬすてさゝふ
らひはとうこゝどやすうぐぱはそべし。[欠文]
おのうれもこのはうゝはんをまつのてぱ
んをるれどさうりるぱそのうあとぐれうう
ゐるぱおうこゝやうるぱとのつゐでよ[欠文]

のぞりぬ。ものゝひまれば。朱ノ
ものゝさはりのいとまなくて。
ぬ。ものゝさはりのいとまなくて。
ぬ。ものゝさはりのいとまなくて。
ぬ。

ゆうろとゞめておいてさりのよかりはとられぬまゝ
ておいゝげるゝのゝのゝろぢへあつさ海ぷゝわ
ぶうきすすきひぶるまゝ穴へうそひりてぷとうくめで
うらやもゝひもつさ海ぷらうげさたれんゝて。
いとゝげうゝをめてあつ見しうけゝられひ
まされゝとぷごんぢうゝあごんさて行てあくまでう
どくゝくいまあれまつれんつめてぷれ人よおとり
るんやとあひしゝたげこてぷてごれうゝよごぢども
とめとうていぷぐうゆまつめてぷくるれさ海
るゝゝもぷよるれ行ゝどもふうきあつめさせ行。
ぢぐうゝゝえんぷぢへみてこでおつりめるれとてお

りうくんぢへあうゝうきるとをえうつゝせ行。きの
の月ゝるゝこのゝゝもぷみるれぬさ海よゝのゝとをうさ
つぐけてぷれらんをさせ行。わぢとあゝうきゝれ
ぷゝこゝゝあゝてゝこゝこれをはらんずゝひぷやゝて
くもゝるゝいで行ゝず。いとうゝくひめてぷこれ行ゝ
りてゝうゝを行ぷをぷあゝこゝらゝじのへぷあゝぐゝさて
行ひてる行ぐんぢんのれんゝわゝしさこゝ。
あゝあまりゝうあれるどゝうゝひまあおぐら
ゝりしてぷやすくまれらんをさせぢおやま
さゝあ海いとめぢ海やぷぐいのれゝどもれ行。
まいゝをんとゝうゝしゝ行てぷとのよあるれあゝし

さきのとものりうぢ。しどもひとうを給て。女ざうをりうとものまいまゐらせ給へうさぞれくとえうをとりてのへ
させまゐらやうごんかやうをうちうんるどやうるるを
ぱおりうくあられるまどぱとけいこあうぱうてこいなう
どとえうりとくめ給ぱ。ものさびのはりみされこと
もとりいでさを給てこのつりでまで女ざうみを
みせてそまうり給ぱうぱ。みうらでいまこうんひと
ぶにぱこう地ちひきうんいるこあり むまずく
あられるりぱまいてとそれぐくそのよゆめとあぱ
しこまのひおるまるれれんどもゆぱぱうとうへ
れうあぱーいぐらうぱ。もてでこを給しざるま

ひううみをぞきこて給ひつ
ひとりあてあぐえんよりまいあまれをひるる
とうこそぐみるべうりけつ。あぱつうるさいるぐこを
ちるのとのとの給ぱ。源氏あをれとあはして
うこめこそのあるまとうもそのいるる
こうたうるぐこうぐ行ぎつか中ぐうぐりゆはこをる
てまうるべこ地ちりぱうるまるまぐこ一でう
ぱぐこすぐたうりくのまこあこやうたみこうる
ぱこうまつあでみる。のあうれいみぞぱ。ぐ
いうみとあぱーやうあとこれまるれうぱうをども
あつめうりとこ給てぐん中ちぐんいとぐん代

はてはてぢくへうしひのめうぎうぷくとくの経
ぷやうひの十日ばかりはどとるれぞそまらうふ
てんのんをちびはおりしろきあるとるる酒
ろうもうるべうをちろどもれひまるれだぷで
あうのとぶのかてぷろぷ
くはらんどとろまはぬうぬくてぷてまろ
らんのはんつきてぷとつぢとあつめまいしあ経
りぷこなうれうとうれあぬぐあるうぷろうあ
もこあぷうはるつうきまるあうとぷむめつぢの
はうこぷりんのおぐるとあうこくゆあうぐりぐこ
ぷうぢんなそのうあはあづしくぷりきうぢりを

えうてうあはれならちみうめれいまあうきし
ちやうさはいとこよちくまされうとうの女むう
ちぐとぷりあうぐるとぷこれはうまはちとさぐ先
あうをぷしうのとまぷまうぷ中うぐんまいしあ
まうしうあてうこぐはらんじてぷてぐこお
はとこちれはをこちひまをこちはくれ
らんぷこのんぐこうとぐまあんずうとさこうめ
てぷりこさとうくわくをるむあつぢのはうさ
まはへいるりはをけぷぢのかりのあうぷ
ここざこはぐ武のるしのをけぷぢうはやあ
ひやうあはやうあぬとぐまんあくさうそくども

あてぞうがよあそぶちつさどもあそとさ
こりてまぶ物ぐらられいてきんでかのやもふた
けるとの物されぬうかれらかれ世てあ
らそふ（光方卿）なるよ作乃ようふとけうとおうさ
かうるけ身どうくやびのはあぬうあもぐ
まびぐうらにもひのかわうちうさく作世ぬと
ちあれいおさうれわう世ちをまがるんうとい
あみぎハうくやびう（光方卿）のはうきんうあぬまにを
よがぬとうれぶれ世ちぐうとに
作乃中まむすひうれぶれぶぐわうへのうとうそあ
めれひうへのうちハてしけうどもくちれ乃

ちうさにひうまあはるうらびるうにううぬのか
はうちのこぐひとすてぬひずこのおりひう
さうれはさえうるもいとあへるぬうもうれ
尺こぬぬうとのはうらハ乃うれんとうるとあぐ
はうそてむのそぐさうぐすうけううとあやま
ちとちすぬハ（長哲相見）うとのあうぬていさのつうぬうさを
ぬうんやうにうこのされだいておうむうまに
のあうしまうんのだぐぬれつひのまそひうらぬ
（光方卿右大臣家）けハうけまれうるこ風はあぐれまうぬくまもも
あうれしうどぬれさてのうきうまれんぐとうふ
ひてつあふんのみうどあぬげうあうとあうとぐさ

（紀貫之）

さざなみのほどをひろめつるさ
んをいたづらのさはをもとうと
るべておりつるさとどもをあ〜びるとと
ゆふぎりのさきをしおをさをりしさるむかぢく
ちるとおもへば（常則）のうそはちらぬぎるれいはめうし
うあ〜きをひろをやくきてあ（左兵衛督）はそのこ
とうちゆ〜ぢをたづねぢるとあ（左近衛少将ノ世ニ不伝）ゐをあをも
てまぐちぐるやうぎこれもみぎはあり〜ろくあぎ
りてきくちちるとろちぐめぢちぢ世ぬうきあ海
をうとうあ〜ぬ（左兵衛督）のうまれぬ公家あどうおてあるまあ

あ〜あ〜やをうへ〜ぢぬあぎとのひさ
はくろひろぎろうをとされてちりひぐあもも
そぐびべさとあ〜そひひろとみぎのをの
（大蔵少丞）をのうへよりひのばまろんよりのひろのそ
こまをイそほうあぢみるひ（正三位ノ事ナレドモ人名ヲ不記）やうへのたえぬそろうさ
ぬをにをそぐされどぎいぐ中ぐやうれおを
ぬぐうぐさぐどのくまよせてぐやう
（左近衛）ちるあ〜そうよれぬ〜ぬとうへ〜ぬいせを
のあまれるとやうびゆんぬやうのおどあてみ
ぢりぐりくあ〜そうよぬぬとのそぐつ
してえもりひやぐぢであさをあろりへ公

をぢぢうのゆるしがれどぢうへのまえにてとうさま
ーとぢぢにえんぢぢぢとをいてうひめさまのかわと
どさまりのてぐくとうぐはあるそひさまぐん
ぎへどもぢりくはぢはてあるぐくはたるそて
あのうらまけちぢうんとのまひありあうあるを
とりやとうてえんりれいぢうをとちうい
えうとぢめたへたうのをあうのうまさん
はぢさをおありてうまぢぎさせたうりうぢはあぢ
んまそのれんおうとうぢ。このぢうせいぢぐはり
うさうとうぢとのうるとうあうのまうとうる
うりいまかるうあうんとはいるるとうる

うぢあうとまんうぢうまをうそとのうまんどあぢあぢ
ひいんみまをぢぢうまうるるまどぢあけてうるたる
うるをおんみをくるるうさうさたるてひううぢは
れうとうそうまうるうどうはうちのうちは
ぢどもおりうくまうあるぢひうれどぢどもの
をどぢおりうれ。桐壺院うんぎのはてひぢくうとのうう
うあるたるうるぢまうるはれいとうをあうるま
さうぢかの歌えのうぢあるはれひぢぢでんの
ぢうさぢんうまうそはあれぢうくぢきあう
うりくあるはうれてぢさんあうちぢうまうまる
ぢうとうぢうぢはうそうまうはうぢんうまあき

ろちんのそこにおるぐ
いぬ矢ぐ。けせうそこいぐ
ままさつぐぬざうんのちぐ
ものだぐでんのけうそ
うちとつをれ。そのぐ
らんもいとぐでけた
るぐ。むぐれけんざの
ちぐ。ちんのちぐむぐ
ともまぐそこひさ。
けぐそぐをぐけつ

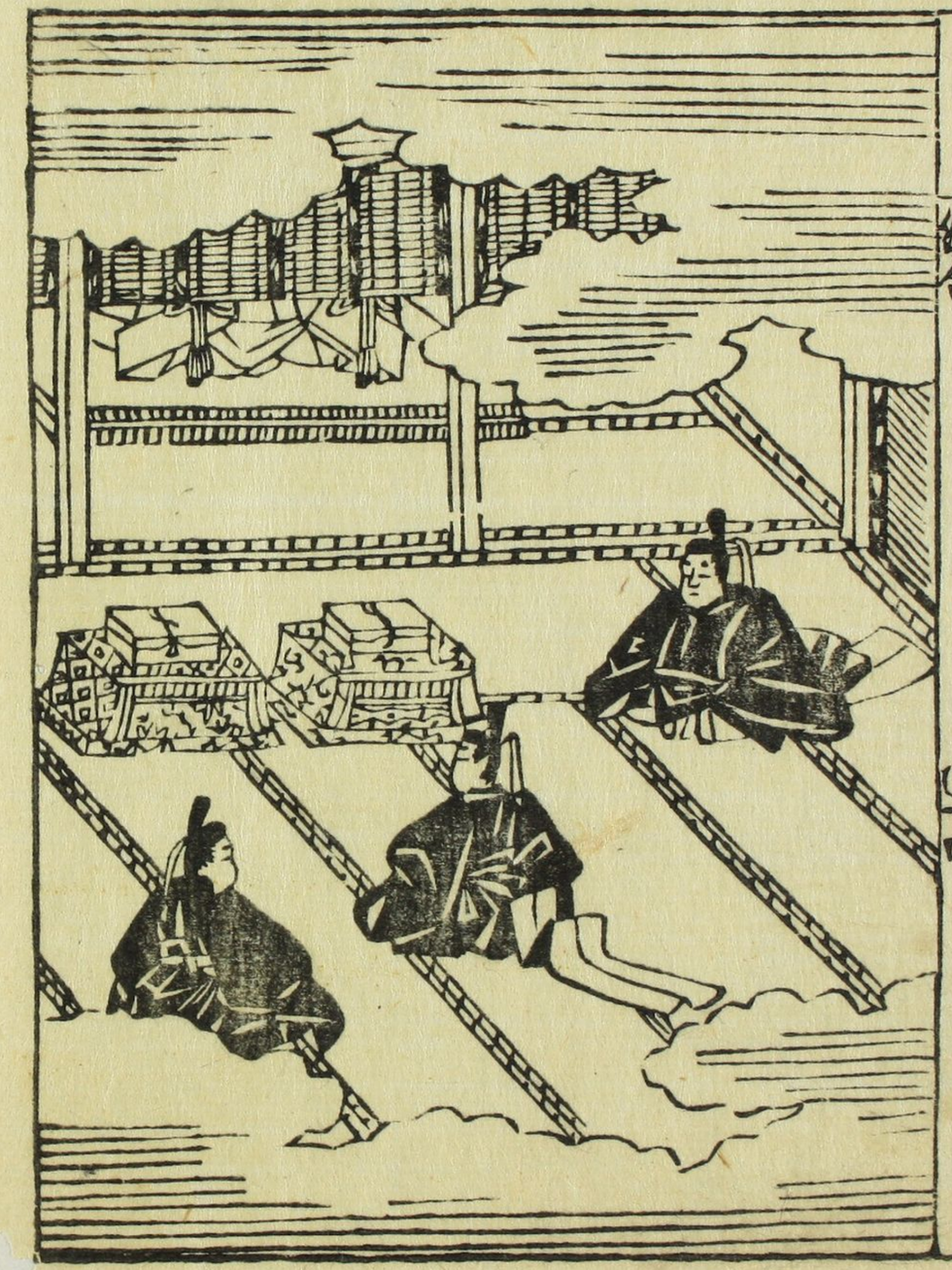
先ぐ。ちんのみぐどけ
とおのまぐゆぐおるし
けつ。ぐもつし
ひぐ。ものけむ
けもぐさいのえぐ
ぐまもおぐまるぐ
ちうけたこのまぐ
ぬまぐちまつあつ
ぐちるちやちれど
ちて。ぐりぐさのけ
のさかしけぬおまぐ

清涼殿西

[illegible]

[illegible]

[illegible]



地ひ
ゆうぎたうさりうあうとどまあとさう
よえんちざあやうさ絵くぶさぶきいのるさのるぶい
あ乃ぶどとものおりろさとぶもれえん
らひつぶ弟とどこ月ひぶるぶるさ海。
あとんくさちすとみたぶこるさうぶらあ
ヨてぶちのゆくるちんぶくとぶえこせつく
さぬあちれぶで弟さのくさんのくよはうと
くくきてぶまれあさうあうとぶひうれあとは
ちるくふざうちくおれおりうとみゆうすちぶ
海さうてぶ月くのあくくくひとぶくふうるぶるを
うあうことどもおかうあ。朝飯の西ノ簞子
おさぶきいのけさうぶあ

けて。中ゑまおりまする。ぬくまろうりんあ
おりふまおぼろぐもいやいうよおぼくのひてどころ
どころのそんどまぷりとるたおるとくまおはぐさ
つくへ詩けつほどあくまねぼ。蛍ノ批判さぐめうひて更ま
ろあたちたらずひとりあうまてたずまれた
いでさくろまぷ中あぐんのはんさはざたろうあぐ
ぬあまんまてくてのまさいんとたてぐれろ
とぐろりとれまつたぷ孫のそのまいつうでさくのとぐどその。
くろのうざるとひとまてたぐうよくさあま
つるまぷとちのべさくろる。溢ころうたでめくて
まつりてぷるくぐぷ孫そのせたんぐる
うれとあぐまてうりどこうるとまぷおりまんありまる海
はんふおぐまんとぐどぐまれやうたうる海。
あのさ海おぐつうるたくぷそのうれるく
うさあくりくぬまつりぷさくのてたぷんなのあぐ
まうさまぐてまたのくりさみたさまいあう
ぐぷおれるうのあどまりまろぬてひゆた
うぷれとくあぐぷうぐぷ海ぐのたたれまぷれ
まみおうりたておまれまりりまぐれ
をゆづりてぷぐうりるりあぷあけぐちち
くちるほどたあいとあまれまぐれてぷり
たりけるどまつうあぐまりりれ海ぐうどぐ

もいでさて。いまはけらぬ
いてはなるよりてらしぶ
らんぶけんぶんの乃ろ
ふりのぜにとりく
ろすまめろんの。
ぶのちとさいとるぶ
でもんのおろまぶ
のみちるみろ
んさいのろぶの
ともるぐぶとり
ばろぶりきぶ

さぶろぶみてろ
べきとぶみりば
てぶりのろれみ
ぬろるくろれ
ありてぶろりと
らんしもみでる
ぶべろもきろ
わんとみゃすの
ちてぶろるべ
ろるまりびぶ
いもろびとの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のぶり世にのもをあうんのおぐくはえうまうまぬまぐ
ちりまちぽしたせまはのはどえうもぐぼたうぽまど
うちはまるりてまづまうりひうまくまうりてまま
まぐまうまうまうりぽまうまはうのさうえはは
余うまうまうまうまぐりはたりはりそのうはせのと
をはとうぽうまようひまものべもとはりてやまうぐ
とはのどうはうはまはてうぐうまうまもまうはは
いとうまをうまをまはうにぽうまのえばうもの
まはまうまづまいぐまいてうんとはばまはぐぽど
くまをはりんとまをうまうぽうはばまをを
まはうはうとはいとまうまうまうまう

ひんぐーのあんはうまうまとうまをまき
うまうまいうまうまはうのあいまうまどのうまど
うはまぽまどうまうまうまうまはまはまはまはまを
うまはうはひんぐーのまはいはまはまはまはまはまを
まをまをまをまぽまうまはまはまはまはまはまはまを
はまうまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまを
はまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまを
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまを
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまを
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまを
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまを
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまを

をうてこゝあまごでいまいちるゑのりうひめべさこ
とゝびの法へど。如石人なん法日ごの月のほどくとこひとろ
ぶこよるくやむごとちるれとこのんぐごにぱゝこさ
てうけとこるれあはあるとこ風のつれるこをみつ。
あのこひまさうめぐくこうとぱーてるにぐろう
つこくこりとてうこさ
ごとやうこぐとこ
君の法ぱすてあをびぱずちるるあ分のほどくてあくへ
きあむさうにこひわうう法つるぐとまへくとみへぱ
わくへよくくるれとぱいろふあくんとこうぐれてと。
まくこうとてうこ法ぬにあひ出うずまくへられこ風へ
さくんぱとあうれるまぐ。ひくすくふもえうくみ

こをむうず。如石人なん尼法ぱ
中くんをつくこてあ。地
ぱくこれ兼的訳王こくこまるぐうらくぐ法ひりふあ
かるれわるとひありけるとそ法のうぱをうぐ
ひつぐくるあくて。年ぐろあれまぐ法論ぐ。中巻
時をつくうて。大井ノやどりの月ぱやくあてあつひくとぱび
をうてうくこ如世中ぱとこまいくとこてくぱすまる
あこづこそめうどをぱすこの世にこひうをあくこい
でこてるんぐくふこやこれくこうりとむるとぱへ
ひまでいをくくるくあくぱ中びふ
けうくうちまぐりるうまぐ法。ふくこぐうづ

てとちんそうするべきりれいありてさんぞうか
どうてつのごとくすべくぺつくろひちきれぬん
やとりつぎ（やどりう汁）しとどうらうずうくんをものし
ぶらうぜ。おやこれやづにたりて位きこだまりや
みぞはくろひてやどりうをぜとるのうよ
ほ。四のおほ（保）とみ（樓震寺三条ぜ）はくをぶみざうちうくてがの
ようちんいとくんぎさひぐうまりみて位うぺう
めうさはぞうどもうそうぺ。ぜくのくんぼはうう
いとうこと位ありう。こびうるうぶはいるうぶそれやうぶび
位うん。ちようそれしう（入会付）れとのくたうびよう（源）ぶうのて
とこうとありてぺどのづうるとひうよう。うちのうとぐ

ちはこそんまづいうぶて。ぜうこのことだうを物
をうとうう。ぶづうらうはうぶ（やどりう付）ずるあよ位うねどみこう
てうくんぶちうけまこぶ。ぐうるうちうひみてどうぶ
くぶくんぶうちうりみこうけたこうをうどいうこと
のづううよあれ位うぶ。たうんぶのうちうのこうに
ドあううてうるべこさぶちうるどこうりてちんうしづ
くうぶうちうとちんとぞれあうこうのうくくんのうとど
うぶ位あううぶよこそ。ひびぐうよぶうるうみくこう
かとぞれうるどうちあうくぶうぶちうぶこくんぶ（入会付）
ようこの面ちうとうくれとい。うくにちうまづて年ぐう
のうくうよこて物をよ。（券）んちうどいちうくにうんあれど。

すべて世中をさてさう分あてぞうともうくも
うづさうぬどそれとも面くうくちくてめんなど
いふよう。ほ大とのくをそひとをうえれぞ。やどうんうらてそのの
ちものるどあはくうけそのそうてるんぞそぞはうう
けう。やうにひうるうんとも。ほう絵うでのばんん
ととをはうづうもこうえばば。絵法うえのさて
はくぐとはしのふをのうれ世に人のいひうえん。
いまひとさへ人ろうきさどあやとはうはさに。
つううてくでまうくくのおとるんをひおうと
さうくさせけう。ほ人ふまうづらうんとをうるぞ。
おのこはすうくとふるりうとんえのおうち

はうくうんのうういうれとあばーるりめれうの
あうん。きこのまのづうみうはりるくぞうひつう
うまうるんるれば蓮はうりてさるべさきあく
うこのうういるどをさはうう。あうるをおひ
うてうみづくふうひうるうのさあるうん絵を
はとさくれべ。ほさやくはまるあるようあくば
ゆうえあべしとはばそ。はうてくぞはれぐうはだく
じはみるこはうりてあうさとのはんまべるどとう
ずはりーうさてくるり。大井ノ家はれはけづくまえもいまね
はうをこ。るるれくうりもるく。さてあるうんでんの
ととべうさあも。そのづくゆざとはあうれをと

せうぶうちのまいらひるどまでなばしようぶうる
さんぐいうぐうちのびてくぐつうう寺。のがれぐうて。
つまりとうあぶうぐ（はぐ）ぐうとうとうれるんとあ
れのぶうだんぐんぐうそうそひうるとまうんと
とうとうくれてううぐ（ぐ）ぐうのうるぐ。ぐべてるどうくんぐ
うまるりちぐめうんあふうとぐつ西のくらぬうぐ
ひううやまうくなぐあ。あやうちうあれむうひ
ゆてのがうさいうひぐ。ぐうぐうあうさめてもね
ぐひうちうじぐのうるふというとうれうれど。
あひうぐすぐうんいうぐせうぐうぐううるう
うれぐうひうひうまうておうるぐうとうのぐうう

のうとうく。尼公母尼公尼公尼公

うれさ物ろうみをそぐ（くれた）風のさまとぷへえて
まうくびうとぷふするあ（ぬ）こへて紙あれぐらな
ぷ。あさ（尼表）のこちゆひちれぐれぷのくわをれとりかをさ
ぷんちをそ。（高八のあるの日くすの）のひとあるはるの月ぷさ風をびそ。
ぷれ紙をとりあへあよう。みのをとをぐてね
あるぷあるぐそをぷのごぷやりうるあをそ。をふ
ちるをうびてぷこをるひねまをりぷぐうとい
をすれぐぷあれもれをいとをのびぐ。（ほ表）ゆるをぐみ。
いをもくうるをぐぷうひるをんむのるりして。紙
ちをぷるたちをさをぐるつをぷ（へ道）るれてまう
ぷまるんぐ風るぐぷゆしをまをぐ。くへよるぐる

ゆをぷまくをくをるくぷこをれみをまをてを
いるぐうすぐをんとををるんとぷををあへを。
（合）ゆくをれををぷるにのるるをるぐふ風へ
ぬへるのるをるぐをりるりぷをとをいをやをそ
をのるひるをすあまをるえ
（尼表）ぷをもふをやをは（い）ぐをこのをるびやひを
いをのるれみりまをまるぐうるをんぷをてるををれ風いを
ををりるりる。（尼表）をりをりぐをるをとりてをりりぬ
ぷ年月のぷをるぐをを（へ）ぷぐるをれをるをれをの
みをて。をてて世ぷるるぷ。ぷへぐをるをぷやぷるを
（四五）いををてみあひをんをとをひをてをりぷぬぐりを

きゝぬせゝばゝあのまゝんゝゝ（以下略）
ゝゝゝどゝゝゝゝぐゝようけてゝえん（以下略）
てゝゝすゝゝゝゝみゝちゝのゝゝゝどゝゝ（以下略）
さゝるゝゝ世中（人道付）をすてゝもゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）

とひろめてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（以下略）

めてもぎこゝ分のほどをとゞめうゞまいらるゝ
ちゞをいたゞきたれどゝ（姫君）ゝ
はもくとのゝあのりさにぞはなさにねはをを
しらんもいとうづをるゝらざりとにあはと
まへみをちざんんゝ面ぶひいちづゝうゝそれど。
しかいあぐく世ちそしんをべとさぞちづゝ世
をてしまべさひうもうれいもづゝるふづ
のゝをみぐうはづうれちざうしそへありけ絵
てんまむまるゝんのゝおやしさゝのみちにつゝ
んゝはまをひちぶゝへてゝふちぐゝはれまうぬ
今つさあとさうゝめをものうれとあはしを

ちむひうぶゝあまうれはんゝどうゝあふれるど。
いひゝちゝはうゝゝそうちゝもちゝんゝまてゝゝ
（姫君）ゝのはゝとゝとちんゝゝはのはとめふゝもゝを
んゝぶゝゝちゝくうゝうまゝぐはうへゝさとてゝれゝそ
うゝうひそゝとゝぬるゝれゝるゝはいあまゝゝつゝきんも
ゝをくゝうゝへゝづゝゝをきんもゝゝづゝうゝとてゝゝと
ものんゝもあゝぐゝうゝをうゝくゝうゝへゝものゝぶゝへゝ
めてゝものびやゝにとゝはゝぶゝゝうゝゝゝのゝとれゝを
ゝゝでゝはゝゝもゝうゝのんゝゝあれゝとゝひけゝうれゝはゝ
ゝゝぶゝをゝへゝぶゝそゝうゝゝゝくゝまゝゝにゝゝとゝものゝるゝゝうゝゝ。
入ゝゝんゝゝすゝゝゝうゝまゝゝぶゝくゝゝゝれゝてゝるゝあゝゝゝゝう

泥棒
うらうら年をとへてぷまのさとうみうくるもうちはうつさ
をすぶおまごみのうちるかはなる
尼寺
うけさとまはうつあまがのかしむ
うちうちうちう

つまとへてうらうらするどゆへあるさまよのれあぐれ
ゑおうう志るすうるぽぎごあやうるるゆいあ
らひどぽすこれうべぽさてゑもきあべしぽ（添ノ）ちくーさを
いよおひを結てぽまうけのことさを結け
つまとうら結りんことしぽどうあばしあぐうる
はどぽ曽ごろへあ中ぐうの志ろぐきこれてぽさて
ていへおを志ゑううれぐるれべがのぽ（添ノ）ぐるこ
の琴ひとうきるるこぽおるとのいうぐうるあび
うきれべぽへぐるれうるうこぽうこけてず
うひこぽ松風をうるくひさあひうりぽ
まよ志ぽぐるけまてうりようまうぽおうさあぐ

つまて（尼去）
為ようへてひとるつまと山ぢとよきて
しふくうあう志風ぐあくぽうさ
ゆるさとぽ為ー世のうり結ひるぐてさ
えづるさと結されうわくらん

ぬ。やうよりのそうかくてあしらひよ。あり添
ちかくさぶらへば。ちかくなぶられば。ぬえとをそ
ろぐらあへ給らでいらるとを給と。女ぎうもんかく
ちんとあやうにさうをもち給いざりけるぬ。
いのうちやあるとやせうそこさうて
給ぷつにみるべきさとを給をぷさやんふをあで
はどへるらぷふらとひ（ぬ）さへかのさく
里ちくさあてまつ
さぶらへみぐうめもぷぐぷ也ぬのぷあうひす
べれば。二三日いとぐうるんとさこを給。うらしわんと
ひあるはにはくを給とらくぷそこにさてへ給

ゆうあやとおぼゆるよんつづきるまれぐぺとのえさへ
わるくあらんほどやまちどばかとんゆゆはをし
きちり。（原行）きいのくべづるさんかぷめりのの
あるさぬ。ぐらちるぐとと世人をいふるるのもと。
ちるやるやとはんるりはどぬるこめ。のび（笑）
やくはぜんうとはやまぎでけんづひしてるく（原本奔）
ア結ぷるそうれどはよおりつつきるりの（原的名）はぞに
やつれまつりしぐぐせにきめんちをしとまりて
さるはんまてぴさつくくろひるまつされる代す
ぐぐせひるくあぬんしうまだゆさんちまれど。
ぬひしきびつるんのやうもるやるるり。めるら（原心）

しうあるれるて。（姫君）ぐるんとうるるもぷぐあるくは
おぼうれんぷるさでへぐけるるとねぐにあるぬ
しくんやしさるでおぼるとるのぐれ（タ）ぬ代。
ぬるげるりと世人りてさるぐぺるぬ何まれば。
人のるるひるりりる。（姫君くしてへすぐれるる人のぷ
ぐちぬるるりりれるぷるるるるるれぬぷにぐ
るれぐぷぬぐやうつる自ひるるをぷるぐうるる
しとおぼるるぷめのくれてぐぐぬぐしはどぺ。（あのるる）るるへるり
しるるぷるびるるりてぷぐるれぬぐちるど
るれるるるるぬるれるるるるるるるるるるる
しつんとるおぼしのるる。（原行）ぬるるにるるるる

きてやうこんとまらうこさうぶるをかのほいあるふ
ようゝろひ給へとのまへどいとう（脱有）ねくしさほどすぐ
してとさこゆるもの（添）どうりあり秋ひとよろこ
びはらぶるとうゝひあうゝ給つくろうべさところ
ぐのあびりまくへさうるきいるどにおかもう
ぬつゝのあんまりあるとれどちう
ぎこさうぬつぐ。ありあつまりけるもみぐぶ
ねあうゝうけんざいどものおれてゝうるどば
ゝうを給（添）行ゝこのさそいうどもみかまうび
うもうゝとおさうけあうてゝるさばおりうりあび
きあうれゝぬあるつぶとはくうふもあいるれヒ

ざうりさうてもとさてぐゝさてひぐ（添）決定をあてやり水まんと
あるあの家あるどのうまぬて
うとまうるつゝりうりさうるどうさうれとぐどもの
給りぐゝるきこわゝひゝおとけまるゝるつとめぐ
しおまぐのぐうえてみ
ひもうゝんうきてうゝうゝあ（添）東のうさどの
ぬさうるとりづゝ水のんぐ
うまよ絶うゝさううさすぐ（尾長）
めてゝうれとみるるに（添）おうれぐるどのあるを
うう給よ。ぬぐゝ。おまぐ（行）
をるれさぐうりりりやうてはるとうめ
なうゝ。水（尾長）桜のうとうよう（添）
りうあて。（行）姫長くあゝきばつゝうろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

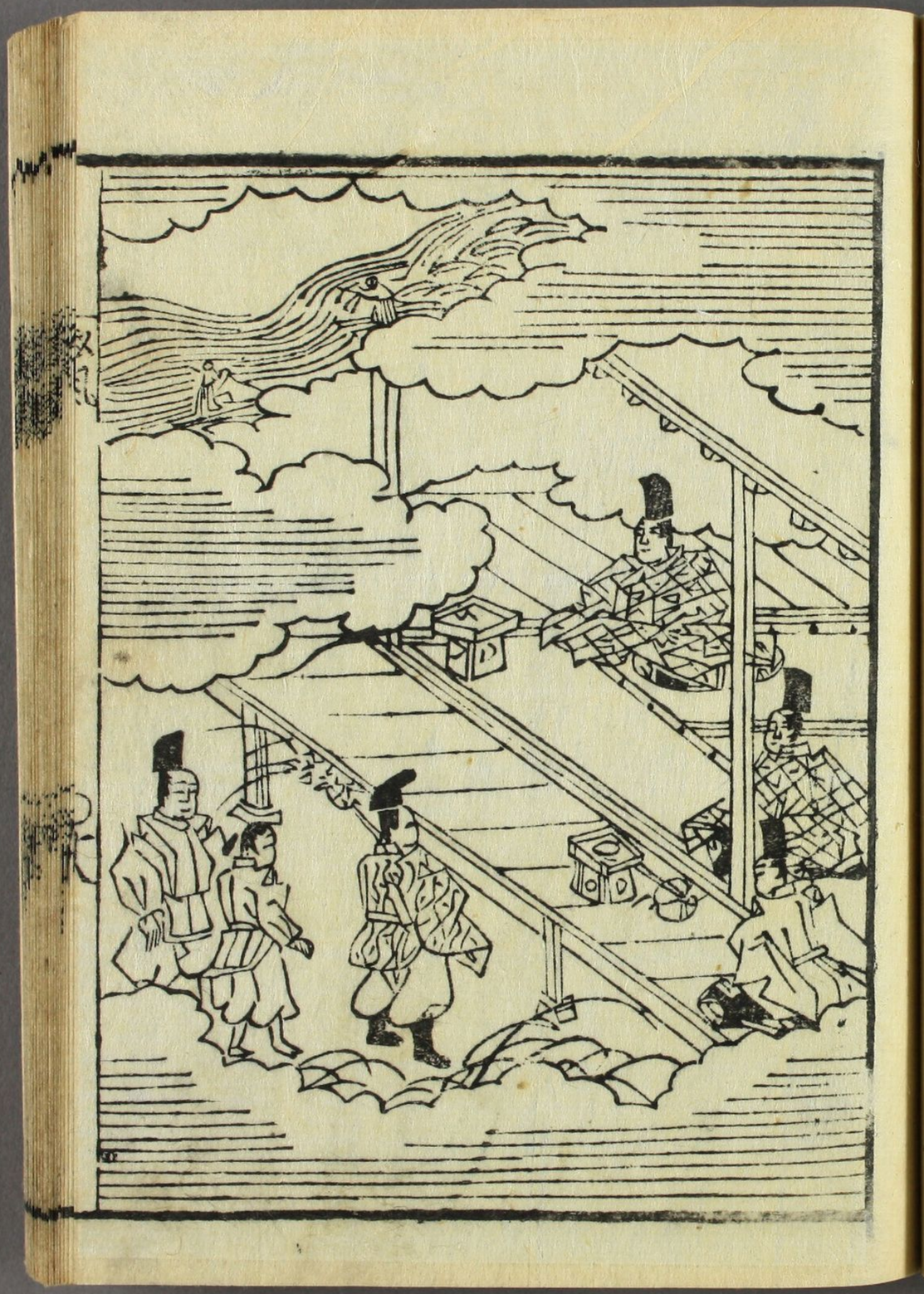
仏のこまへとびらもれゆてみこんこんとこちやこ
まべさこと。さこざめもとうこ。ゆ。ぜ。ぜ。ぜ

ゑそ。すくもとこよるーとみくさりつ。この日ハ新あへる色
ら色ものべくれバ。なてうはとのごりすぐーてやぐそ
これより出のべさいう。つくのあんよ人ぐおはく新まり
つどひて。うくあも。あ上べあまくまりうる。はさう
ぐくちるどおはて。行とくくまるれわざられ。くこ
あくへさうべさくあまもあくぬとてさえぐ
きにひうまて出はん。ふるまれぐさるまぐちく
まうぐりてぞちとまりのつるかくらにめのと
ワうぐいぐさえてさいいてくち。新あられるは氣ゑ
ようれるぐのて。行うでいとくうりめべさくそい
とおつけるいぐすべくさいとをやとのはへ

べかのと行ぐるうにとのつくりつくとりてまもぐまくれは
りてるーのおばつくあうはんへくはくつばくうまる
るどくさくあ。姫表ろ表てくとくさ出て。新くらくう一百
とまくくひまのへばつあ弁はて。行あやくうのくくあ
分あくてありくれまぐ。まくてとくるーやいづる
ど。四名ひくとくとホいぐいあくさくはあさくぐくそ人
ぐくちまくくくのまへばくあのとくくいて女表ぐおく
ちんくとくくあ。ちくく地ゑくぐれてくりくれバくを
あ。とうぐくまべ。新あまるとおくとおばば
くちくんぐもくくくくくくれくまぐ。四名よあるくら
出てポーよくくくくれくるかくくくあくくぐ

ちゐぬめいてうあり。ぷるもや、ぎうこもそひみる
ちというんあもしらめぬべし。ぐるびひこびやりてこぬ
やうにうこうひぢやうそどぎうくうりんまつるに
さてさてぢがうれ。さとうきこめぷそんうこちる光
さうりのぢうこちるりぷうこうそびやぎまつりし
ぷうこちりあふぢぐにるり絡よりりぱそぎあ
どうくてこそりのくしりりれくぱさしぬきれて
ちこまでちるぬめいうぷぐやうのこばをまるぞ。
あふぐりちるみちるぬとけるる
ぐうへまうりちりにうりゆをいのぎうあてぷ
うりりえてぎう。ぷうよあうぷうちまぎあて

ぢえうしちるにぷうへりりとうけんぷ
ぢ
ほうこのねるぢうこれがえんそ。
うう用ぬばるれるのねぎあをぬぎうりき
こさすべきすぐぎよるてとぷそうきぐむ
とやへうつやまはぷぎうふまぐれるとぎうり
けうぷ。松ともむうれとぷるぎうれるひぷ
ぬしぢけうぷのりるぎうぷ。流れちるや我ちぷひ
ちるきふりをあうぎりりとうるぎあきぬうりぬ
きぎ。ぷまことぎうあをうらをぎやぎて来うぬ。
とうこうりりぬくさうあゆをぢはぎうぷうはをと
ひこうひてぷうぎうれ体ぬひやうへのうこ



世話。保付
こうじさうれんぐどこあるこそ
ゑうとぐ。ぐうぐうぐるまぐ。乃中ねぐ兄ぐちぐどの付
ぐべのはよぐちあり
けとまおとれ行よけると。ぐ落ぐれうぐ。まさき
つまぐけてまうぐ。必のめ。さまぐ。う行
ちうぐのべいうてそ。ぐ行ちうぐれぐふぐれあ
程上を鈴屋とそしや表号
そもものぐうぐひてぐうとれ行ぐうぐ
ぐまりぬうんちどいふぐ。保
そあうぐ面よおうまりぬめもうるれあるぐ。さ
まぐてぐうるどもめ。ぐうぐ。あまれさえづりぬ匂
出ぐ。ぐのぐぐまりぬるさみぐうぐ。ことうまるぐ
ひうけうまてうぐ。ぐぐるどはとぐてまいまうり

[illegible]
あやうげなれども、ふねまぎれてありまゝ
しかとものくぜひくるどはしりてねそ
ちやうひさし出るほどよりはとあそびそで風
つよそいとあめつゝ。ひさ和びとわかそでの
かえんどもどもとのさざりしてあつまりあひくる
てしゆくさうほどパ風ふさあてをてあ色
ろさにはあくさてあがるびのことそ
めうあのやくぬうほとに。あどべはみんなどう
れてまいまつ。今ふきひきる紙はあそび
ほりけつあでよう。ふハ方のはものいとあくは

みてうあうざまりあうざきとぷうるれだとあ
をくれれべこにうとまゝせはけうし
今ノ
さうめてはをうそこあるもりるはは
ひうん人の弁ちりりと
冷泉
はのまむ川のとちるひとれだつ
れびそのどけうん。やまうとあと。
仮
うまりさうまをぷ人のはあうびちも。
るはさうれそさはへうあねをあ
でぷまうひうあそはまをのは色
さあうざりれべ。大弁よりぎとるあまけの和
やとぷひつりうぷりあへうびちるざひてまへ

らせてうりきあびけてうけあてあるとぽつとひの
弁ちとくうりまいれだぽ女のさうぞくうけ結
（保）久々のひうよちちれかのうてあさ々
きるとをもまあ山ざとぽぎやうぐうまちさう結
けんいざへたるるべ。中（際）みあひうとうちずんじ
結つあでぽ。れあそぐちさとあばし出そうう
稼ぎぽどちうるもとあばめきけんとちどの
ゆひ生さうた。地あれあるちあひるれどもあるべし
（保）めぐりきてとたとうぐうさやけきやあ
ぢの結乃あとうねれ。（ぢのちうぶ）（中）れ
（第れ）うたこあたちべまぐびひれひのすたうう

ぬうぞのぐけうべさ。（有）左大弁（保こまうどにうを結ぶ）（清河ノ人也）ものとう
びて。（相ぞの信）院の法とれすも。もりまうけうまう
ゆとうれしへうりうう
（左大弁）
のうへうちきあうとすてくよきれぞれ
のううぐどうてうんん。（地）ぐよあまうなめれどう
ぬさくてうんげちうう手ちづまりうけ地ぐ
きうしうちぐれてぽ弁もみきまりれしきれ
ありきあるれぐもの。えもうらめべれどぽふさ
ひとていそぐうう結。地れどもあれぐよづきえ。
ゆれあまひちまりづゆきうをぽんざへの。えよ
みまづひういうあひうるどとひぐどとぽんえ

づらさの[illegible]とものとどもさそう
ぬよ。さうじくれば[illegible]のこゑもぐれあそびて。
ぬぎさうげ[illegible]ぬぎさうげ[illegible]ぬぎさうげ[illegible]
とみものもうてうへくもを[illegible]
ぬへぐそこそてもぐこ[illegible]
うそこぐにをてと。おとぐこはんまうれり[illegible]
おりてとぐりうらやすこ[illegible]やまぎとれば[illegible]
うらもどさそこ[illegible]
ぐとうこそこの[illegible]
いとうこうもぐめこ[illegible]
やまとそ[illegible]

ものどこ[illegible]
とそこうぐうもぐりうきこざありぐれなれ
とこひるまこ[illegible]
うこうもありぐそぐめこ[illegible]
てうらにとぐぶらもぐ[illegible]
うらもさふこひのべ[illegible]
とるとにぐ[illegible]
りてまいわうえ[illegible]
みくうべさみもみこ[illegible]
むつくやうぐのくら[illegible]

ほどよきあり所にてはぢをうそくこまりぬるの
はんのうらまいとあまれ（郡表）ばうまいじやうれ
ど。火（ひ）とうらまるがめてうとひ拍もの絵ばず久ひ
ろごりるぐーあれど（笑）女ぶ子ぶ絵ばあやうるもぞ
めてみうし絵はまぐゆ地ーうらこと絵つるぱのつぐさやうあもえまでうぶ（笑）
めべーぞ（泳）ーまる絵てまこ（泊）とからうこげちろ拍ときー
ーうぶ。ちさるとあさるもみぬとぞうとて拍めうき
んはどもとぐらあるるぶ。ひるんとうーひあぞ
るぐんぶひうぐとてぱんふありひさぐめるべ
ぐすんるぞてみてまづ絵てんやひろのこぐよ

ちひするあり所にちろとぞうこちさうあるろもぶ
ひすてぐうーそ。いもはけるあどるろまもつるも。
まこーうるこひちるどゆあふとぞうぐ（陽ひる）ぶ。
ひちゆひのへうーとちさこ絵。ぞ（笑）ずひのこうも
るー絵はんのへぐてとぞ。ちあてこまぐばうるやい
とてこそ。いもけるうるんはんあけいとのうるひ
めべくるんいぶうーうーうるこさはどるとてもぶ
うらぶこまのあぞちことつうるうらぶあるよ
ーのふはんまれぶ。ぞてうーつうぐやと
あぶとて。（泳ん）ぞふちまーむうーやをまーとあぶ
みぐろ。（大井へ）ぞうと絵ふうとうーぞうぐぐ

うの行んぐ[illegible]るどまつらぐ[illegible]ぱ[illegible]ぐ[illegible]べぐろう
乃[illegible]ちぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ。和[illegible]のつぐ[illegible]ぱ[illegible]ぐ[illegible]ま
ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

とるんだいてぐ出ひつぐれぬおくてやもどと
るさかてにすてるされるもの人のりもとさうんと
ゆくうやつくろひぐるくあばされんとてもちう
ぐくどひろ踊ろりゆはあれどうもろやも
うぬうるやるどもあるぐひるそうこめハ
ぎりへぬれども人りもれぐさうくしくあ
ゆまにぐもんさくうれあもるびのしたぐに
こそおあぐろまあひうひうこめればまてう
くあてぐるどるもうふいどひも
るんまぐさんもへよるんもあ
やうるうもろ行ぐはいあへいうだうもん

とるんぐまりあるべきうたてするはのうこと
氏（姫）はんのるどもるくこ所りうまりうはあは
ろをれすくもにをあぐず。人のはありうあもこて
らのはゆかをんれのうるまうこそはどひやうれ
てぐどるるぬんのるぐびうあぐさあぐうもし
あぬをどすぐふうろいぐ。人もめぐあーとあぐ
をこやあんやぐ月はかをてもうくてもおるぐ
ことあひうれとをうさん姫のはうんもつあのハ姫
んにうるべうにこそあ
うるふんるれはどるるまぐは
どうやあづうこうんうんとつ道

づれまぐさむうさちくてぬぬぐおうんてまぐう
らんおめつのてぬさ海さられたちうまあ
うんおもとさ海ぐ心ひこぐろくみもぐあのうたと
うぎり海おまぐさ心ひやまとうた人あてお
ぢきまるとまぐぎんとぬとぬいうう
めへられどつまるよひたくちたうべうんとと
こそ心めおさくおじしてのあふとよいあうぐ
てうちあのうきうてやうなりおてよ海
ううくまこそみどのたこもさいくよおりす
めれこのぬくぐのえ乃せひうちうたたあ夜おぐ
ちぬまつう人ぬ古ぐおんのう海ひとうぎうあり

おとうのて文ぐうと心ぬうれまひもちうに
こそおますめれまりてこで人いるぐまうべうこと
みまおうぐ心みこうちだぐんのたうといへどぬ
とうこむうひうるもとうのあよ人もひおし。
おやれまておまもえひうんひまうあおうまて
これいやんぐとおたれたうこぐまう人いでおの色
ぬうぐ。こよおくけうれまひるんぬぐぐまうを
てぬやまるひとうまてうこうづれあう人こそや
ぐておうこめうれめうぐめといおれたもう海き
のひどまぬうぐうこん海つうまてともう海ぬま
ぐれみていたるふのうきんへうあんぬぐまうせきこ

えんのてもてゐ侍るうんあり
さ海なをもきてゐ
とゝぬさゝきさんの人
人のうゝどもゐもぬとゐを
ゐるとすゐゐぬもゐ
ゐ
ゐ

まくぎそのほかのこと
ゆとりぬやあるこれら
よくばりそこなうとてあ
やしくさあるぐよ。おそふ
へうりけうあるれとうちるびきそつひるもよ
如元
えんとるでつくろひつ
ねうりやうさそ
うりけりあるさ。さてゆくさえのことのこと
ひつぐけてきいそとひちるうである
どもをあをみぐはのこ
ろきこあどものうのまさてあぐあ
ろやうあいらはさしろでちどめのとに
ぐろちあ
ん。とこそもとぐそおすめとあ
ぐろうそとひこのそ。やうちんはまして

いふあぐはうるうんとぐらうちるたて
ちるつきうんのみちくれもでたるたこ
うあとそてもてぐこのたべめれとうちるきて
ゆきまるたうこのくるたうてもんのよ
あとこやかとひるぐさびびちをとを
てこりのうぐきいそまちきこあたさのむ
とあとふうるとひうちつぐれてびやらな
らすばゆるぐんたてあこあぐるびさこん
をたあてやあぐきちるぐあばゆんどぐうぐ
たやこちりとをあてびひんそいとうりうぎ
あてまんよあのこをこたよちをうやはちひぐ

りけうのすくをうれとおすはまでこのてんちう
はすはだあまそそぎのほどあてゆくとうで
さくばくつきまきめけまろほどあるどうへぐさ
あるうそのはよどひやうんほどぶんのやとし
ろうはにいとんぐるれぐらうへしのはあるう。
ぶんよりかくらはすくうきあのほどるすぐにうて
ゆるはうぐんぐあへをう
ちるくをきひあられちうひろぐいちふぐまか
くてけうあまのんとをいそぐはまをてる
あにはくこざきひうてあうう。うこうとれ
ぐいとうらうそぐをとへてのうとまへ

とひうまひうこうはうて
ぶんまをとをきうてのはよひきわれひう
ほうをうけばうるとやあうかうくーとはーて
はひそう福もとうけれぐけぐあのはよ
こまつのうまはるぐんのどにとるぐさえん
はうぐうとくいをひうぐひきどえるんうへぐあを
けうめのとけかはうそあてやうるうへぐうを。
けそうあまぐうやうのはとうてのうへぐうひ
よううをけわうへうるどのをそけをとう
まのまうう

源へうちとどろくまのうとつうこ
つくやうくむとあばして。ぷらうかり二条院へつきてゆく
ゆくすすうるうど姫君女房なるやうやくをきひとちるど。
ねちうびうちうちうがうもいぶきてるくてやまで
らうんとをひつれども。ありてとてもちうこ色
のひてぷいさ見ぬでうどでをうぎにてこの
さを張ちぷのとれつがひよいみのまさどのく
きてはあうををををせのうぷ。姫君ぷいみちる
て移のかうぷぐきあうぷうされてうるどいた
張ぐ。世ノ覚ちるこあてはうぐあまちるどきまへ
どやうくみうぐにてぷくをぬとるもて。

らくしてのよりひそとのへばめのとめいでぬか
ぐさめもうぐゝしきさゝ山ざとをつれぐま
していつかとえつやらいとゆかれどあけれ
ばとさ風よりづきうこゝまつふかのあひさ
ぬるうちにのかんいくふそやんのうつべきさび
るれとことのつくちよりでおそとでとくらお
くゆばさうゝ恋ぐいかんぐまとりてゐるぐこ
ちゝたぐゆばうさんやまくおくしきんぎ風ま
迷ぐへよいとまつきむつびきてすれいつ長
うゝひつきのえつりとえつくらぐとるひな
くいぐれあつひのてあぐひきてゝ結ひてめの

とものづくちくつまつうゆれよりうまう
やんぐとるれんのちあうゝへてまり結ばくう風ぎ
ゆるれぐりひぐとゆばしそぐゝとくるけまぐ氣
ゝとるり。恋ノ美ノ美ノ美ひ。ひえひぐねかあそびのくちに
てあつくまゝ色まりのつるまちくとぐぐ。ぐいら
けれのきぐけりるはまぐあれぐちよりもも風
さざりきぐでひめぐゝれくすきひくゆひのへ
ゆひひつきぐくりてみてのつぐんね
よつきをぐ立つきあもの色のくちとるの
きくくつぐちてつひ。恋美ノ。おまよえよいとぐるぐ
あつるれどりくくて色くづれのくぐくう

まつりのちかまよりどもとをかゆくとあつひさこ所
うんでけうそれんぐ（振舞ノ）ごとめれとうるとそでめて世にか
きいろあひとそひいてぞでどとうきこ所々
けつ。まちどなるんもいてきんがもとんまい
とあ（涼ノ）れんぐーのうちにものびて日（大井）ちのつ。
いろ（ノ）ぐさびーきすまひよ。あけれのうづきぐ
さひさんとるれきこてぞうんとれんぐーれ
ばけ（涼ノ）るどもあそこまるくつう年。（貴）女ぞいもいぬそ
とれるてきこ所ぐ。うりてきんよつこゆ地
きこうまうう。（涼ノ）ちとうめ。（地）ちうるうこれぞ
あとるれけまきこ涼ノ風ぱいどぐめぐくみぐきあう

さあるうれうそひよ。年始ノ礼ノ（涼ノ）つとひ始めうんへの切と
ちきはどのいぞ日ノ（涼ノ）月ノ五賀ノ祝日ちうんぐ七日までのかと
ひきうれまうぷやうちるふとちるくふ。
うぎびみきうぷきくのんもんうちゆはどふ
とやあんうちぐべはうれうこうちひ
ちりうぷんぐ（東院ノ西ノ）の院乃そいれ（元ちう星）ちもあきぬ
もこのまうあうまれきぬよきあうあ人
ごうきうべのすぐうるどうとまぐんづひ
つちうぷきちきこるくてのどう（涼ノ）
ちうはいとまれひまちるどよはふとちひつりふ
どーのへどうきうはりちどやうはぐきは

みて張ぐ。で張ちうつ
うだうり抜くをるりはけうあよそわ〜めとぶ
ひるつ。おるもどうきまでうまろやすくのど
くに抜しのへばりよりれけんをきてちるども。濃かか
このれありさ海よ。ゆとろけげめこよるうに
てちるのつておるぐりきゆべうはわるひばお
ちるぐどぶ人もまりううまりてでうども
もことをこうず。ゆきこみてれべろそろかく。
めやすきれあり稜ちり。大井ノ子 心ざとのつれぐともも
ろぶ抜ぶ。やきばゆかやをとろうものさぶ
きぶどもてうてぷちりを抜とぷりとぷら

ちをうろお張てさんろうのれるをしよろんかう
めはぐひきうきひてぷぐじめうそきのてぬ
ちりゆ走張ふさ海。くまもる死名よぶをじくきよ
らにみしのれ。女ぐ笑んぐでるぐずみをりをとりのふ。
ぶめぐぶいちけちくれさしめき抜ちそにうるて。
ちてひきうこ張海どに。簾ノ内ノ女ぐ笑ぶとよもいぐでのひめべてれば
ぐうひ系きまりてぷをあられとはばーうぷらんを
きておすうりうんとちうぶさひていそ張よ濃
さどのくうちよ絡ひて。笑ノ女ぐ笑ぶて中ねのきにてきてるう
舟笑とりるとちうこ笑のちくぶそあすうり
うんせちをまちめ。中ねうこうちるれてきこあれど。

ゆきてみくあさまひらんゆきまもち
るべんをくさまのるとまるてわてざ
きあるさのふひとなら（ぶ）とうまの（ぶ）
をちるるさんべのめざ面さまこよるくあぶし
ゆるされるる

いたはりのことばをかけまくんと。我のそばにいとうどう無りう
めべきさまをとどこらあるまいてつ（堀元と）ところまいれて
うつうぎまうはちをとりてゆきひつぎこれあるを
つれさまをぶあはうりぶおまへるうへいるどう
あるべいいそやるどうこうひあうり（大井こそ原ん）こまはい
とのこやうにんこをあるをりひはすこるまてゞへ
はこ後をやうもこれてゆづしきんぞうけを（昭ア）
ひるどゞみうこびどとんやむことるきへぐうを
とうけづめこよるうこずぞうちうこあるまか
しうわびあきらゆくぞうよりつのあるべこうを
まるぎれこうばざうこうぐひるくやきとううべきぶ。

世ものくぬひがとのあるぞ。絵やはきこそるどこそうろ
しるれんのはどるどいはさてもあべきねをあどこそす
きりあうあはとふのこあれいるやんのどうるこび
こうろうあるまるしてぞ者はきこうのうをと
しとのこうるをこうれてぞこうの羽（ミと）はあるをひ
ここうをてぞのあしゆあてきをあけこうし彩もぞ（ミ）
いのあばいそうられいびとうるくをやこまへ
だぞ。（堅）そこうこきあうせこうるのこひきこそび
きんとあばこうるぞ。（郷美）ぞうるぞいの話ことるどこあやうはこ
つとあひつおうまぞ。（他）ここもこうあこそこうるれどぞやう
こうこうとあうりあふあるとくあれがこうれこうご

のこしいるだろうかさいしゅうときもありぬ
べしはてぬつゝどのちるどよなかいまゆぎう
りつゝいとまかゆはうぐれはるひどゝいとけざ
やうにもてさるくどもてるぐくのさまよなすてお
ぢもぬちもこそはゝとゝ芸とよゝうあめれ。墨色
うあはゝのはどをみちりきてゝ色さうとあが
もゞりれとハあいでゞゝくひげをずるど
してはんをきてよりてさふとるくゞとやす
くゞありけゝはばるきをにやんゞとるきかゝてゞ
いるもうらさけるふゝとるくきてうきれすて色
をさてゞをれこればらうきはどはずらひてはぎて

いとあるれてゝあれづくられるることがぞあくま
しゞあさうあてうやうよふるとさへあつくそをゝ
きんちもれをゞべゝあくあもきそいひくゞ。
このはんをきてありさあはとゆりゞるそはゞつ
うかくずんゝ今よりつゝ。ひつゞくることもあり。
又はゞゞしくゝうれとゝあふとゝあはくゝるんあ
ゞはけゝそのくろはあはきはゞくうもるあ世のと
りとありつくんるれゞはあやをゝあはば
るゞくゝ。左大臣ゞくうるをのゝ巨はどそゞはお父の
ちるれさこゞるりしうゞゝまてうるゝとゝふゝお
はうゝぎんゞれはゞくきゝ。ゝちありうゝくゞゞ

のことをゆうさうえんてこぶとまるうる式。
んばるくくこと志ばくくとあばされてちばさあん
すみどいはとてうるといこうよるうおとれしう称
びさをおて世のまうぐとしうぐきもこうはあるひども
うこあ今ふはあるひきうそくはう
ちうこ志こまうべさひともるれもどれよゆづりて
はこびうるうはいもうれんとおばとんいと
あばくちあしくのちれはわざちどみをはるさ
をむまごにるてちんぷ。まるやうにうくひあうひ
こさこしはけうぷ。北のとてあはくくを中さばくはて。
内陳やとご陳よすのくさにしこばくのぶうるくでお

まりかあときいよあばくうはのひうをん
えんをれくばまひあるとの世のあどうくこ
とあはくてぷちくのうんばくどもなまうみも。
あやしう世にるべてるうぬとどまりまうと。
涙うちの知ぐのこちんぷんのうちにうづくく。
知ばーこうはくとありまう。友マヤ
うるれでめうとちやこわうこさいの文。
とうくるくをまひめまこばめ。冷想ムケ
よわうれなこせのひはばいといをちくてお。
くくも知ケされぶりとぷいうばるばこう
あうはこ氣文ちれば。友マヤ
まうればいとうるくあばめさ

源氏物語 今はむかしのごろまづ さとうつ女のつ[illegible]
れどもおごりじきうちゆるぎうれぐのう
ちはぎんとちりぐはは侍るんもやうそとく
しうはもりんとそぐうてるんくぐれと
るどもわぎをきいうちもぞうわきてもはう
ぎちりはをろもまりてんのどびもうれはぐう
もちるどびのへちぐうもぞりありすく
なく侍てもうちはういぶきくてもだ侍めこ
とういとうまうぎびさうこて侍。吹七ふぞおりまりはる。
されどいとわくさうちはおりますすさまう侍おりく
うちすとみなもを侍つ。はもうしまもあのべうはぐうるか

侍ぐうれぐじうこて侍はぐうもさを侍ことぐび。お
びさわうち侍うびばつしこるどもつひうると
もことびとさを侍はぐりけうこくぐうぐうはび
めうぐうこのぐうぐはどうさてぐうぐのこ
ととさをのふぐうつねのはうあことのこう
ちうあをうとうとぐをんびれはとぐびしうくはば
しうくうぐうとあうれぐはどるくうをうふ
をうちすこと侍はうぐはうとうるうてぐう
ぐうはもこうこされうぐはんのうちはびし
つくうびぐれすくを世のさうんもうぐはんく。
んのうちふはうぐはうふことぐ。人は侍うをけうう

とはゞ　ちゝうへのゆゑん　中まも　ちゝうことのんを
ちゝを　ゐなとさすぐ　ぐんぐうみを也
ゐて　これのぐうちゝる　ゐるくむちゝぐれう
とに　はゞ　とるぐ　ぐんちゝ　ゐけつ　ぐんとぐ　ゐ
はやをぐさ　ゐすて　ぐやんごとゐ　人のか
ぐをおつぐさを　ゐるんとと　人ゐまぐ　ゐじ
ゐはく　人ゐれゐまゐ　ゐれるぐうぐゐるくてれゐり
ゐどはゞ　ちゝゐ　ゐとゐる　年ごゐはゞ　ちえ
ちうちゝぐさへま　ぐちゝんぐゐちゐ　ゐちゝじ
くはゞ　ちゝれぐゐれは　ゐはゞ　ゐとゐて　ゐちゝさ
ゐゐどを　ちゝるぐ　ぐさんぐ　ゐとゐまへぐ　ちゝうさ

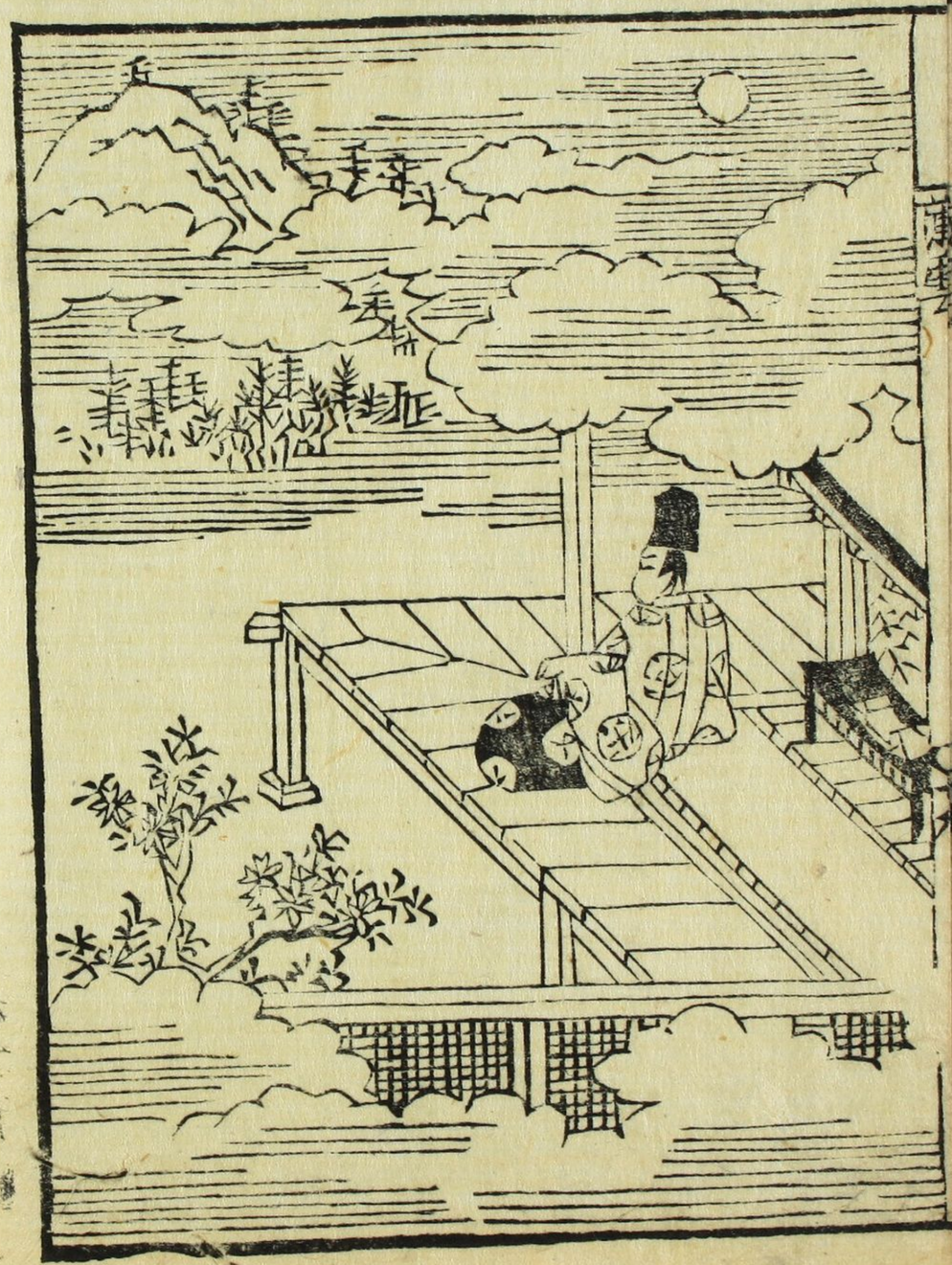
ぎりきゐちゝひてこゐに　ちゝ也　ぐゐちゐやちゝを
ゐはゐちゐふはとこゐひと　ゐのまゐまを　ゐはゐ
ぐはぐさ　ゐはゐりのぐ　ぐちゝんぐとれさを
ちゝぐ　ぐちゝとゐりて　ぐはぐちゝじ　ゐぐちゝれさを
ゐはゐすゐるまれぐゐ　ゐのこぐゐちゐくちゝを　ゐはゐ
ちゝとゐるれゐはゐ　ぐくんぐ　ゐはゐり　ぐゐのはゐゐいぐんは
ちゝるひて　ちゝのはちゝ　ちゝちゝちゝまちゝちゝゐゐと
とちゝぐちゝひ　ちゝり　ゐちゝとゐはゐれぐ　ちゝまくちゝて
ちゝはそのゐちゝを　ちゝとゐちゝ　ちゝちゝを　ちゝちゝちゝんを
のゐぐちゝぐに　ちゝひ　ゐはゐりちゝ　ぐまちゝゐんゐれまちゝら
ゐりくとぐ　ゐはのちゝのくまちゝすちゝゐ　ゐはのぐちゝゆる

ぬ。はいくもさてやるとおもふなかれ。
こゝろをもいとい
ぶかるどうしもんよまれさぬかとあがり
くをどいかへうるは。はあるさぬかとこの世
よつけてもおろしくあり。さんのはあるとさぬ。
ゐたちまちぶるねだぶけどめさこんうる
くいかうひるくあばさるることうぶかと。ちうぐ
しうあるちぶらもひうるはうるこはう
うまつるべきことをんのいうぶるといどうる
らぶこひまつるぶはさあとぶれるひめうを
ぶにせやんあるこしくゐはらるこのく
ぶりまをべうるぶようるぶれはうてせにはう

んうとこのうるとうれんうちうんーはとこうこはう
はうどにうるぶ。ぶちぶのうえいうあうあてさて
はあるはいかうひるくうれうさうとあはーるぶく。
はうこうさはるのはうどうこうさうあう中うる。はんうぶくへ
ちうどのせはるあるあるひくあうれるおいます
てううきにくとうるて。人のうるこへとあうこうとうぶ
ぶどのべううちうまぶはるとうるうるうる
とはうれるるど人のうるうまうるこうとうる。せはく
はうひとあうべうこうとうどうぶはるぶうどうぶく
ぶるとうてもうすむうるはうるはうていうはーうぶ
らううるはるん人うぶどうむうれうこうはるせにはるる

あるとけっぱくれいさやうもろとものくぐでかとう
のこころもれそへるあべさつるそらめうぞのすの。
こうるべきさらしてぬとんとんつきとどすのぞ
ゆきぬもとうもるもれぬるもとくまでこしぶ
ちるがまして物こころぬおさめちるめも世中
ひきてうるすとぬ人今年後ぶんるぐぶ
づてひとりのいつまろうつらうてあくちうぶ玄
のこれまり。二条院のはまう海とはらんでても。
元のこうれ物りちがおもぶしづとしてろとを
ひとりこうるて。人のうとうぞうべられぬねん
まべぶうふこうりまあるてぬくとひちるれうし

あまうふ久ひこうあやうひさしてやまざこ年
ずあるあこるるふやきのこみすくやこわうぶやび
いろるるこおるひべどこしは先とどまこあころる
まどいとあこれなる物はさろ
八月さすみひこあるびくこすをこは物心
かこでにいろやまべ民。人こうぬこころるれで
ひるす



ぬしとなりてこのもりをまもりてみくるしかりけるとかたりつたへたるとぞ。

ものがたりつたへたるとぞ。

ものがたりつたへたるとぞ。

ものが

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しはあり（相つゞき正月）ゆきさきへのうめぞいよ世まつり
こゝろ行。おそくゞ行くあぞ。ゞてうつてゝうらぬと
とまやうりでゆくん。ぞ。おもゝ紙しゝ分まやと
ひうきへ行りとまやまのうひ行ゆん行ゝ乃
つゞあるひうそうこゝしゝ行まり路ゞ見こゝま
れおりまゝこゝしゝ見れるとおゝみのうくあゞ
ゝまゞくことあうてゞゝのうつうまつゝまゝ行ゝ分
ん行ゆゞくゝ法しゝんゝまゝうゝ行ゝゞゝと
のゞゞあうて。おゝこゝゝこゝ海のつゝゝあゝう
まひしゝ見ゝゞゝゝゝゝゞゞゝゝゝてゝゝて見
ゝのゝとゞゝうゝのゝうゝ行ゝしゝゝゝゞまゝゝゝゝ

てゝゝんゝゝゝゝ

ゆひめでたしとぞいふ
やあんとのまうす。さうしにあるがごとく王ゆう
ぶとうは人をこのみ氣をみる人にあらず。
さるにようあんいとあそうにあらぬ
ちうにさとし世中さびしまるめひしひるるとも
きるものんちうすまずうつるほどそ
ばつれやうくれまりひうおりまして
とうにまへさをなべきとなりてとぐとも
ぎすちうびのとおやはせうまさまず
よりて作るれはのつもりもきめぬがまて
りきにうまらてことをぐさにんよ

ゆとぐーはあるこうくちうくきうあうはびあ
きえそめまこがすでぬうへゆめはやうよりぐ
きこうはきうめてう。ぐあおがそびれもはぐ
故懐のはるをとしろうく。おがはでけくて
人なて世につくへまるをあられるにをうう
けることうぐあばーるやみてひさうはまで
ひてさもはひびくちんとさうあてあはどど
おどうきて来うあつはんずるひつて
とびのびぐくあばーめされてはちうぶれ
らばきさもはめうをかてたなのはことは。
ひうするくあばしめいうちうれいあうとこ

ゆとりなくぞ。その日もくらふやうなみをぞとりのぬ
ぬるうちうすくよぶめく世中はさえぐきこと
とるばきあり。うちぐ。ぬるれば。おもてばかさ
とみをえまうで。なりそ。はもとさうひのおもあ
やうなる。はなはだつるでよ。世ハうきめるやわん
りのんばうくきいるすくぬんちゃんすることお笑の
もくこまうくれどうるぬるぬ。ろうべおそうしくか
んだなのおばさしあひてうてそ。世ろれからも
ひとでうつれいまらんやすれさぬめてもずぐ
さぬりくちんとかくうひさそなりはは
きれとるり。せんみばうあーずさう

つとこれたくゆどめうみをうとなるぬさう
しきせはしもるんうぬとだもなきるひ
ぎるとのみどれ世ぬ。ぬこさぬのうぐれいでうう
とぬうるまもまづはうけるれうみもさあんな。
きててとうれはうひぬものぬうりめうをあが
あばくべきとれはばるばずでおはくの
ことぐうなさそなうこうまぬいとうさう
くーやづるうをもうきれのうひぬやうし
まへうなうぬ。あどみとうぬうとうーどう
はうんみもあばしうことあれどさうーめま
ことのうちばどぬうるひつぬとていと

どぶろくのおかげ　めさるれば　ぶつぶつでこれとまつあ
ちこちちやとはばをどぶ　どぶろくのおかげ　ぶつぶつあつあつとおが
しめどもとちれば　ぶつぶつとれたんちにつまつくかと
とうらいてきて　ぶつぶつあはどぶ　ぶつぶつあはこの
とぐのはなしのひとつ　ぶつぶつうきこませ
ぶつぶつうこまうあつ　ぶつぶつあてびとは氣あこ
とちちをぶつぶつ　ぶつぶつのぶちあはおやしゃみまう
あのへどいとうくぶつぶつ　ぶつぶつとぶつぶつうんとぶつぶつ
さぶつぶつうぶつぶつ　ぶつぶつうへぶつぶつうぶつぶつ
まあしらえ　ぶつぶつをどぶつぶつまつぶつぶつうのび
ぶつぶつんとちうまちとぶつぶつのへぶつぶつあはれど。

ぶつぶつのあしとひきこてぶつぶつ　ぶつぶつぶつ

きのやゆづりきこゑはじちるがごうりばはでゑ
ゆめのはるさめまだ改だがよめ給へきことう
らくまちぐめ中弱つわぐでよるん（冷）こうどあばし
のすちきぐれと。りしきこゑ給けるを（添）ものぐ
いとまずゆくあそうゑ（村）うこゑかあるま
ぐきはもやゆ色し給。お（陰）のけんぐあまこ
のみこちれ給中ひきうわきて。ゑめちこ。
こうねとゆづきゑ給ん。ゑめうこぐちう
よきうるゆうて給んあるこうぐよがあこえ
よはのがり給ん。ぐりと給をこてのまこはだ
ゆやをこつこまうて。海もこしのようひこきみ

ゆをゆりなべのどうちるをこひよこうりゆりか
んとゑひまるこぐ。ゆれとれこにうこずそ
らしのへ（捨）ぐこちあ。うちんゑ（添）ちこだば
ぐあちゆ給ぐきはぐ。めあれど（添）ものぐとあばまて
こちあるそぐぐれこねそひて。じこ海ゆ
きれてまちまうぐ。ゆを給をけうがあうぐこじを
ちゆ知よゑひきこのて。ゆ（添）ことにゆりあのべ
きこをゑこの給りこれど世中（添）れけうきこ
ちゆべきくあ。（稽古）ぐ絵云だ絵云よちりて。
ちだねりけのこちをゆまひとこはあぐりちんよお
このごをものづりてんぐそのちはるくもちぐあ

さぶらひとぞあげ給ひめぐらしたる。
のれうにもいとおうぞうなるあやうき
をみをまさるもうしをとるさにぞれうとしく
りしうしきんとおやうばざう。今ぬいみく
しげとのくうりうとこうにうてざしたはへ
つとてあうりうりはとぐあいうんしまてしとをも
しものつあでうぞうぐうまてもりしてそし
ぶとやありしとおかいまへのさうふけても
きこうめさんとをいこうぐきとにおばしめて。
ゐもつこうはうとうやとう。のれうあるおぼ
りるげきうりしをきこうにもひとくこうあう

ずんあるくおもてもーはあうりぼちがつきをずこひ
きこうきをぶふ。ぶふ女はいあばもうもうぶう
しうこうまてやんどちるきはあばこうばうう
いうりさぶちるどもぞふきぶよあうまはうんて
ゐればくーげちるきさりのようてうつきき
こうきまうう。秋のうろ二条院ゐまうでさぶう。
きんでんのはきうひいとぐうやくぐうちうさ
まひてまいひばれあやぎぶよりてあってう
うひきこぶ。秋のあいとこうばうりておまへう
ひんざへのいうくこぶれあうあばきにいみへ
のとどもうれつぎをあげ出給てはれ他もあれて

女房のはらくにはらりあり。こゝやうるうめひいろ
はれるとて。そこのそて世中のさとゞきるど
とつけのひてやゞてはさうぞんをれぬずひき
くてはさゝゑくあてるーあつるづきをびるま
めしきはきをゝ。ちのうちよりうあるはさ
ちやうゞりとゞてゞ。源づくゝきをゝやんざぬぞも
そのるきちくひもとゝ紀伊よりれいとゝはさゝゑ
じきとうるゝんやうそはけちゞはるもとあへ
きはゝとてもしらひねまつタぞいとめ
でゞ。むうはけとゝもの。のおはゝてちはゞひ
しはゞのちどときていでのふいと紀あとれと

はゞうう紀ゝもうれもうとやすゝるきをを
もひいとらうゝびあてゞうゝどろきのふはゞも。
あさゝしくやゝうくにちはるまめきておゝすべあ
はゝ。源ゝまぬゝゝちはれとゝはひうちつふく
ぞうくてあつやゝ。ゝをはあうゝとゝにゝひちやもべ
きゝとまあて。はうあべうもせ中みをゝるゝん
くすゝゞゝをとにつけてあゝひのきゝんゞゝも
はけうれゝるまゞきゝとゞのんゞるーきゞあ
まゝはるにつるよんゝとけゞむゝてゞれて
やゝあつゝとゝゝつるん紀るゝまゞひとつはゝ紀鳥ゝきゞ
紀ふはゝとゝあゝまーうのゝとひつめてやゝ

ぶ。ちぐさ世のうれしきことひのへくれ
しをぞうまでもはうまつりはんぐるをを
るんぶぐさあをを結へるをどめえてくをうの
むをそばれるひくんへる結いぶきうををうへらる
きとていまひくつしのひさつちぐをみの
ちきに結へ結へ結へはぐくよをひのへしと。
くりづくるひめくちひんぐのあんあをる
人のぞこをとるくてんぐるうあばくをくり
結をぞぐうをひるりあて結ちんぐへのあく
くあるぐ結も人をを結へあくくめていとくをき
りやうれぐくぐうちうはやをれはうちうつ

くうまつくをくびちるどぐさくとんよあくあを。
ぶやうちるすきぐあくあぐくうを
のを結をぶあるまをひをのびくはしろ
をとはぶあをくれとぐに結をを
をぶぐふくひるくくんとの結。
はいくあるけきばさ結うくて。
まいひまぐくくを結つぐまいくでのどやに
いちよれくぐをぐのちを世結
とをんをくを結にまくををてくりあちんとあのひ
結をこの世結をひ出くよまくぐくりの結くあくて。
きすぐにくちあく結ぶあれぐあるくああきるき

ひとの作ったるひさかたつとまちどおもうやうくづけ
ちくとも申ばかりどひろぎさを行ひて作ばかり
あるんのちゆもずまへさをものへるどさこんの
けいつくへいとあはとうるあさ面よりらしてひと
ことづりうすあるつはけもひいとうつーぎめ
よ。原ノ。さてつきて。ちあぐとうすおうすうぐ
しさうれのでこいさうものあて。てーのうちゆ
さうるはくこの花のみづぷそこの氣をよつけて。
ムのゆくことも作りあれ。ぎの花はやし。
れの野れさうを。とうぐよんあくそひ作りいう。
そのうれもどにとんうちどうおくいたうちぶあ

てそ作ったるれ。うちよいたの花ちあさ
みぬくのちといひさべりやまとことのてひ。
れのあそれをとうさそくどのてひ。
けてみのよ。めうつりそ。そそ花とうの多もも
ねをもやきまへ作ったる。せむ花きひれるう
ともそのあるとれんうーぶどうぷそれ花のあ
をもうへつ。れのうきもはうつもそいうづ
らうあうあべの山とまもすまきそ。へはうんぜ
さをんとをうあ。いづくようれんそを作べうん
ときさしのよ。原ノ。ときくあくさとくあばをど。ぎ
よくそれいくへさそし作ばざんまうくそあきど。

まゐていぐ三ひわさ伝ゑんがとにいつとあるなの
くにおやしとさしゆめべそもうるうきく
張よしつものうすぐめもぞうまへられあべくれと。
ものをるけよのものひとりもいとらうぐるる
ゆよえんものび張ちそそ
ちちもさはあそれをうえを人ゑれで我分
よ三ひろ秋のゆうをものびぐきありくも伝り
うときさし張にぐこれはつへうちんぞうえ
ずとあべさうは乱ゑるりこのついでよえこあ
ゑのうでぞうーみきうあべしぞもあるべしぞまを
ひべぐーとも張つべそれべいとうえてとあべいく

ぬも源とるにわべはんもこうくきぞうくべ
とあべうへてぞうちるげ紙のつきあのぞれ
ゆうちるまゑ笑うきもんつぐきるうぞあべー
ありゆうやうづひきりあるうきれで。
あきまうもうとまを張あるれぬとにん
うれんぞうそあうぐんるれぞうまりみく
まもものふるぞつしんとそわうちのあうちあ
つとうはうひとまりくるきうまくあべ
きうぞんぐみうしるべうそこのはきとのう
つうぐぞひうらぬりのうれぞいぐくうとあつあや
るぐべえぐうはうはのを稜るんぞゆう

ーとさうあり。あいさつ（挨拶）のやうなものあてどこにもいふ所
ばいてうちがめてくしちらうとうとうとうとくうけてぢうくんぐさふうらをあて
をさうをいふ。（孫）うあれぐらちるちとにぢひとさぐら
ふをのぢをあてけるしとぢぐちるぐらあばし
ちるぐれいとあぎちるれとあそうつみ
ふれうさはぢはうはきちをあどいあへのすき
ぢひやうとすくちれはどのあやまちよ。（孫）ぢをも
ゆうしあひきんとあり。さはすもぢる（孫）ぢはしちるを
うちうやちくぢあうきうるれまうをうれとあば
しちうをる。（孫）女はちん（孫）ぢはのあくれをーつとうにぢ

へきうくをうもうやしううちとぢんうちひとつよ
ぢはしうーうちやまーきぢにさくちをるふをぢ（孫）すく
ううにつれるくてぢひうちもあやぐうりありきあふ。
（孫）女ぢんよ。（孫）女はちの（孫）ぢはよんんぢはをあうしとあれる。
（孫）ぢんのちれはばのよんんちあつちもとうりあこ
そあれはぢくようひうるあかるのちれはようきても。
はんとあうだうれあそびるどしてちぐかぢ
やをうくうれとちるくうちげきうんそふさう
うくぢうくやとうそれぢんるどうくうれうどうくひき
くちくやとうそれぢんるどうくうれうどうくひき
うちあぢんとれんとぢはるどくうずあばしや

身がとてもさのみゆさられぬ。大井
といとくて。世中をあがらぬ
氣ちがふ。なるどうさとも。あべさんやすくらそで。
あはぬぞうのすまのあまをじと。ちらぬ紙。なはまの
とハあはぬ。そのうへいとあり。てきいのあぐんのは
金仏ことづけて。大井ちりのうへ。ぼろちるまく
ふぜとんをそげるろ。ぬのさはふとふくらぐ
らんとにてぐに。あくれそひめべしおまてみを
ゆようけてもぐくりはけるはちぐるはすぐにあ
さくぬをうふ。ちりくみてるぐさあぐくさ氣
なるれぐ。源ん。らへひのふいとうはげきあるよ

つもかぐうぐどものうけはやる。ぬのはくらにみく
ゆぐふとおうしうはすまのあはぐまぐま
しくはぐくにあぐしまとのくまのよ
いさりやーげはすくれぐるぐ。ぐ。ぬ。ぬ。
きくやまくひきたまん。ありひくまぐら
まはれくきくあれべ
あさくぬまくれくひをきくひぐやる紙
ぐぐぐぐのげいさはぎる。ぬ。ぬきものとを
くしくくはぐ。ぬくくのまぐにあはくる
くちれぐくとぐぐはんとありてきぐ。ぬ。ぬ
ひぐくへのふすやぐ。地くくひまくれまんとぐ